

医療用品 (4) 整形用品
高度管理医療機器 脊椎内固定器具 37272003

NuVasive ACP システム

再使用禁止

【禁忌・禁止】

[適用対象(次の患者には使用しないこと)]

- ・ 施術部位又はその周辺に感染症を有する患者[感染症が悪化する可能性がある。]
- ・ 局所的炎症の兆候を有する患者[感染症が発生する可能性がある。]
- ・ 重度骨粗鬆症(ステロイド性を含む)や透析性脊椎症など癒合を抑制する身体的もしくは医学的状態にある患者[目的とする固定が得られない可能性がある。]
- ・ 本品の原材料の過敏症を有する患者
- ・ 医師の指示に従えない患者[必要な制限及び注意事項を順守できないため、不具合・有害事象が発生する可能性がある。]

[併用医療機器]「相互作用の項参照」

- ・ ステンレススチール材質のインプラントとの併用
- ・ 弊社指定のもの以外の構成部品との併用

[使用方法]

- ・ 再使用禁止及び再滅菌禁止[性能又は品質が低下する可能性がある。]

【形状・構造及び原理等】

1. 概要

本品は、脊椎プレート、脊椎スクリューから構成される。本添付文書に記載しているインプラントの規格、サイズ等に関しては、包装表示ラベルに記載されているので確認のこと。

2. 外観(一例)

＜脊椎プレート＞

1) ACP 1.6V プレート レベル 1(タイプ 1)



2) ACP 1.6V プレート レベル 1(タイプ 2)



3) ACP 1.6V プレート レベル 2



4) ACP 1.9H プレート レベル 1(タイプ 1)



5) ACP 1.9H プレート レベル 1(タイプ 2)



6) ACP 1.9H プレート レベル 2



7) ACP 1.9H プレート レベル 3



8) ACP 2.1H プレート レベル 4



9) ACP 2.1H プレート レベル 5



＜脊椎スクリュー(固定型)＞

1) ACP スクリュー SD フィックスド 3.5mm



2) ACP スクリュー SD バリャブル 3.5mm



3) ACP スクリュー ST フィックスド 3.5mm



4) ACP スクリュー ST フィックスド 4.0mm



5) ACP スクリュー ST バリャブル 3.5mm



6) ACP スクリュー ST バリャブル 4.0mm



3. 原材料

チタン合金

【使用目的又は効果】

本品は、外傷、変性疾患、腫瘍及び脊柱変形等の頸椎疾患のため、頸椎の前方固定術に使用することを目的とした脊椎内固定用器具であり、脊椎の一時的な固定、支持又はアライメントの補正を行う。

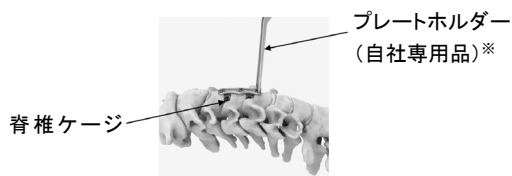
手術手技書を必ずご参照ください。

【使用方法等】

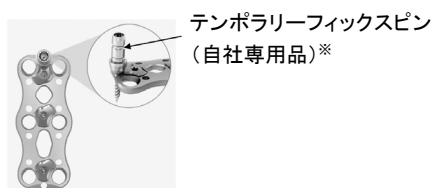
本品の使用は 1 回限りの使用で再使用しないこと。

1. 標準的手順

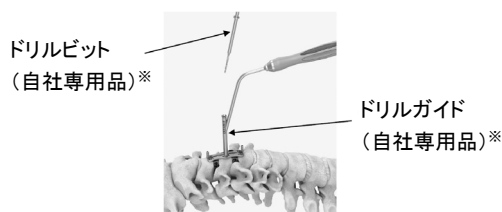
- 1) 術野を展開し、椎体、椎間板等を切除し骨移植片又は脊椎ケージ※を設置する。
- 2) トライアル(自社専用品)※を用いて適切なサイズの脊椎プレートを選択し、必要に応じてベンダー(自社専用品)※を用いてプレートのベンディングを行った後、プレートをプレートホルダー(自社専用品)※を用いて仮設置する。



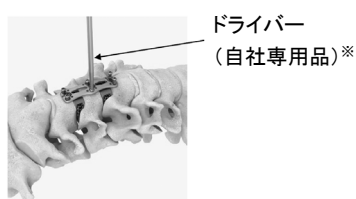
- 3) プレートが適切に仮設置されたら、テンポラリーフィックスピン(自社専用品)※を用いてプレートを椎体に仮固定する。



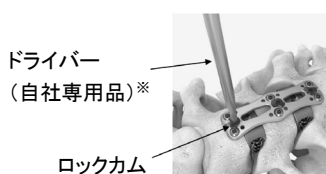
- 4) ドリルガイド(自社専用品)※にオウル(自社専用品)※又はドリルビット(自社専用品)※を通してスクリーの下穴を作製する。



- 5) 開口部から骨移植片又は脊椎ケージ※の状態に注意を払いながら、ドライバー(自社専用品)※を用いてスクリーを刺入する。



- 6) すべてのスクリーホールにスクリーを設置後、最終固定し、ドライバー(自社専用品)※を用いてロックカムを回転させて、スクリーが適切にロックしていることを確認する。



2. 骨癒合後の処置

- 1) 医師の判断により、骨癒合を確認後、展開し、ドライバー(自社専用品)※を用いてスクリーとプレートを抜去する。

※:本品以外の医療機器

(詳細は手術手技書を参照のこと)

3. 使用方法等に関連する使用上の注意

- ・神経機能障害の原因となる神経の損傷や血液損失及び体内の血液供給減少の原因となる血管の損傷を防ぐため、脊髄及び神経根周辺部に対して術中継続して細心の注意をはらうこと。
- ・必要に応じてニューロモニタリング下で実施すること。
- ・必要に応じて術中イメージを使用すること。
- ・患者の解剖学的特徴及び症例を考慮して、適切なサイズ及び形状のインプラントを使用すること。
- ・インプラントが破損する原因となり得るので、インプラントに傷をつけたり、衝撃を与えたりしないよう注意すること。
- ・本品をベンディングするとプレートの機械的特性を低下させ、ロックングスクリー機構の適合と機能に影響を与える可能性がある。
- ・やむを得ずベンディングが必要な場合は、スクリーホールとロックングスクリー機構を避けてプレートを曲げること。ベンディングした後、プレートが破損及びスクリーホールとロックングスクリー機構が変形していないか確認すること。
- ・骨とスクリーの境界面を損なわないように、テンポラリーフィックスピンをプレートに取り付けた後、過度なトルクをかけないこと。
- ・15mm 以上のスクリーを 10° 以上の内側へ方向で使用する場合は、スクリーの接触が起こる可能性があるため注意すること。
- ・骨癒合不全を防ぐために、固定部位及びその周辺に必ず骨移植を行うこと。骨移植を行う際は、可能な限り自家骨移植を行うこと。
- ・骨内のねじ山の圧壊や固定を弱める原因となることがあるため、脊椎スクリーの過剰な締め込みは行わないこと。
- ・最終締結をする前にスクリーがプレートに適切に設置されているか確認する。ガイドを用いている場合には、ガイドを最終締結前に取り外し、目視で状態を確認する。
- ・閉創前には、すべてのインプラントが確実に固定されていること、また、ロックカムがすべてのスクリーヘッドの上に正しく設置されていることを確認する。これらの確認を怠ると、インプラントの緩みの原因となる可能性がある。
- ・本品を使用する際には、弊社が指定した手術器械を使用すること。

【使用上の注意】

1. 使用注意(次の患者には慎重に使用すること)

次の患者には注意して使用し、使用後は安全性が確認できるまで術後管理を行うこと。

- ・糖尿病、関節リウマチなどの患者[骨形成が阻害され骨癒合が遅れる可能性がある。]
- ・骨粗鬆症[目的とする骨固定が得られず、骨癒合が遅れる可能性がある。]
- ・骨減少症[目的とする骨固定が得られず、骨癒合が遅れる可能性がある]
- ・肥満体の患者[患者の負荷のため、目的とした骨の固定が得られない、又はインプラントの破損等がある。]

手術手技書を必ずご参照ください。

- ・喫煙習慣のある患者[骨癒合不全の可能性がある。]
- ・アルコール過剰摂取又は薬物使用常習者[医師の指導に従えず、術後管理が十分に行えないため、治療が長期化する可能性がある。]

2. 重要な基本的注意

- ・骨癒合完成のためには医師の判断により、適切な装具（外固定具）を適切な期間着用する必要がある。
 - ・手術に関する患者への術前の説明は非常に重要である。インプラントの限界と外科手術で起こりうる有害事象を説明すること。
 - ・本品は、頸椎固定の補助として生体力学的安定性を提供するようにデザインされているため、前柱支持がある状態で用いること。
 - ・不具合の危険性を軽減するため、必要に応じて、術後の活動制限を患者に指示すること。
 - ・術後、骨癒合及びインプラントの状態を定期的に評価すること。
 - ・術後、骨癒合が達成する前に過負荷を与えるとインプラントの折損等が起こるため、患者への術後指導を十分に行うこと。
 - ・骨癒合が確実に達成されるまで、手術部位の固定を行うこと。
 - ・本品の抜去は、最終的に医師と患者が相談の上決定する。
 - ・非臨床試験によって、本品は「MR Conditional」であることが示されている「自己認証による」。本品が埋植された患者に対して、以下に示される条件下においては、MR検査を実施することが可能である。これらの条件に従わないと、損傷する可能性がある。
 - － 静磁場強度: 1.5 T 又は 3.0 T
 - － 最大空間磁場勾配: 4,800 gauss/cm (48.0 T/m)
 - － 通常操作モード: MR 装置が示す最大全身比吸収率 (SAR)
 - ・ 2 W/kg、通常操作モード
 - － 操作モード: 通常操作モード
 - － スキャン継続期間: スキャン継続期間は、MRI 制限区間の摘要に記載されているとおりで、スキャンとスキャンの間に 5 分間の冷却時間が必要である。
- 本品が存在すると、2.3cm の画像アーチファクトが発生する可能性がある。アーチファクトを補正するには、スキャンパラメータを操作する必要がある。

3. 相互作用[併用禁忌(併用しないこと)]

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ステンレススチール材質のインプラント	腐食による不具合を生じる恐れがある。	金属間の電位差により、腐食が発生する。
弊社指定のもの以外の構成品	緩み・破損を生じる恐れがある。	デザインが異なるため、適切な嵌合が得られない。

4. 不具合・有害事象

本品を用いた脊椎固定術を行う際は、適切に使用した場合でも、下記のような重大な不具合・有害事象等が発現する可能性がある。

- 1) 重大な不具合
 - ・インプラントの脱転、移動、緩み、変形及び破損
 - ・破損したインプラント等の体内遺残
 - ・インプラントの腐食
- 2) 重大な有害事象
 - ・癒合不全(偽関節)、癒合遅延及び変形癒合

- ・(椎骨等の)骨折や骨の損傷、移植骨(片)の移動及び突出
- ・骨減少、骨密度低下
- ・血管、脊髄、神経、筋肉、靱帯、髄膜又は内臓等の損傷及び損傷によって発生する障害(出血等)
- ・椎間板炎、粘液囊炎等の炎症
- ・本品の原材料や異物へのアレルギー反応
- ・感染
- ・疼痛
- ・麻痺
- ・知覚又は感覚異常
- ・神経障害
- ・インプラントの存在による痛み、不快感、又は異常感覚
- ・変形
- ・脊椎の可動性や機能の損失
- ・インプラントや移植骨(片)による皮膚、組織への圧迫や損傷
- ・矯正、整復、固定の喪失
- ・泌尿器系、生殖器系障害
- ・肺塞栓等の呼吸器機能障害
- ・感覚機能又は運動機能の喪失
- ・インプラントに起因する X 線や MRI、CT 画像へのハレーション等の干渉又は MRI による発熱
- ・死亡
- ・消化器系障害
- ・循環器系障害
- ・固定部位及びその隣接部位における変性、不安定性又は障害(骨吸収、脱出髄核、椎間板ヘルニア等)
- ・骨の成長停止
- ・創傷壊死、創傷離開等の創傷部における合併症
- ・骨壊死
- ・血行再生障害
- ・嚥下障害

5. 高齢者への適用

高齢者は一般に骨量・骨質が十分でないことが多いので、慎重に使用し、治療の経過にも十分に注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

妊婦、産婦、授乳婦及び小児等に対する安全性は確立されていないため、治療上の有益性が、危険性を上回ると医師が判断した場合のみ使用すること。

【保管方法及び有効期間等】

保管方法: 高温、多湿、直射日光を避けて室温で保管すること。

【主要文献及び文献請求先】

ニューベイスブジャパン株式会社

〒104-0061

東京都中央区銀座 7-14-13 日土地銀座ビル 5F

TEL: 03-3549-6500

FAX: 03-3549-6503

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者: ニューベイスブジャパン株式会社

製造業者: ニューベイスブインク社(サンディエゴ)

NuVasive, Inc. (San Diego)

アメリカ合衆国



手術手技書を必ずご参照ください。